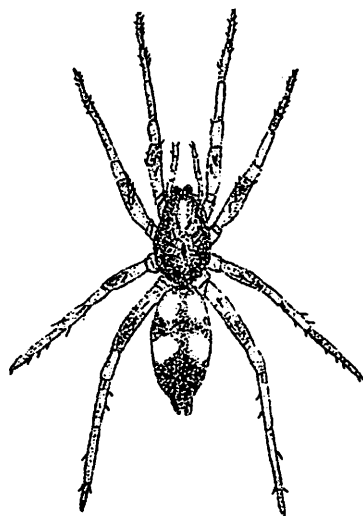


東京蜘蛛談話会誌

KISHIDAIA

No. 18



東京蜘蛛談話会

東京都日野市豊田1,896 萱嶋泉方

PHONE : 0425 - 81 - 7128

東京都(離島を除く)におけるアシダカグモについて

萱 島 泉

筆者は昭和38年4月に宮崎県高鍋町より、東京都に移り住んだが、その時岸田久吉・植村利夫の両先生より、この地方にはアシダカグモが棲息していないと言うことをうかがった。

それは当地方の低温のためであろうとのことであつた。ところがその年の11月3日に八王子駅のホームに積んであつた貨物に、このアシダカグモがいるのを見つけたのである。おや東京にもこのクモが棲息しているなと思ひ、なんとかして捕えんものと、さんざん追いかけたが、遂に荷と荷の間の奥深く逃げてしまった。非常に大きいアシダカグモであつたので全く残念なことをした。しかし駅に積んである荷にいたと云うことは、荷について他の地方から入つて来たと考えられることも出来る。けれども都下で成熟したアシダカグモを見ることが出来たと言うことは特筆されるべきことであつたので、その時から東京都にこのクモが本当に棲息しているや否の調査に取り組むようになった。先ず学生にアシダカグモの図を示めしたり、実物標本を展示したりしてこのクモを知ってもらひ、次ぎにこのクモを東京で見たことのあるものは、知らせてくれと頼んだのである。するとしばらくして東京在住の2名の学生より、自分の家によく似ているクモがいるとの知らせがあり、恐しく大きいから怖くて取れないとのことであつた。その中の一人の大沢忠夫君と云う学生は、何回取ろうとしても失敗し、翌年の昭和40年8月15日にやつと捕えたと云つて持つてきてくれた。その標本を見ると本物のアシダカグモであつて、捕えるときになんかクモをいためつけたとみえて体毛が抜けて傷だらけの♂の成体の標本であつた。場所は三鷹市連省である。大沢君はこのクモを2年越しに見ているので、越冬出来たことを確かめたことにもなる。このことに力を得て、三多摩地方を捜している昭和40年9月30日に国立市谷保天満宮の社務所内において、これも大型の♂の成体を採集することが出来たのである。また同年10月4日に八王子市高尾にある林業試験場の応接間の隅で、♀の成体を採集することが出来た。しかし不思議なことに、いずれも一頭ぼつんと棲息していたのであつて、その周囲を広範囲にさがしても他に一頭も、みかけることすら出来なかつた。さらにその後今日にいたるまで何十回となく採集に行くけれども一頭も見受けることが出来ないのである。

次ぎに昭和42年7月2日に福田 栄子と云う学生からの知らせで世田谷区経堂にこのクモがいると云うので、採集に出掛た。この学生の両親は駅前で喫茶店を営んでいるが、この店に5・6日前よりこのクモが現れ、天井の隅で8本の脚を広げて静止しているので、お客が怖がり、非常に困まつているとのことであつた。このクモは矢張りアシダカグモであつた。亜成体の♂であるが初めてみる者にとつては大きく思えたのも無理のないことと思う。これも一頭のみで、他にはいになかつた。

5頭目は練馬区関町の大政木材店の風呂場で筆者が採集した♂の成体である。昭和43年9月18日の蒸し暑い日であつた。この時も材木置場や倉庫を念いりに捜したけれども他には一頭もとれなかつた。

6頭目は昭和44年9月12日に東京都品川区西品川の浅井つたえという学生が、自宅で採集して来てくれたもので、大形の♀の成体であつた。このクモも唯ぼつんと一頭のみで台所の戸棚の隅にいたとのことである。

以上の6個体の標本で、アシダカグモが東京都で採集出来ることはわかつたのであるが、はたしてこのクモが、東京において定住しているかどうかについては、尙疑問点が残るのである。その第1点は現在までに採集されたり、観察されたりしたものは成体がほとんどあつて、亜成体が1頭のみで、成育中の幼生、または卵囊を抱えている♀など、この7年間に一度も採集されないことである。これは

KISHIDAIA, №18, 1970, July

この地方で繁殖していないのではないかと言う疑問をいだかせることになる。さらに第2点として、現在までに採集された所に、ぼつんと唯の一頭でいたと言うことである。この地でどしどし繁殖しているとするならば、一度採集された所からは、7年間の間に二・三頭は必ず見出されてよいはずである。筆者は過去において採集された所には毎年採集に行き注意深くその周辺を捜しているのである。

しかしアシダカグモが定住しているかどうかは別問題として、このクモは東京に何んらかの理由で入りこんで来れば、その世代は棲息出来ることを、はつきりと知つたのである。最近一般人の生活も向上して室内は真冬でも十分に温度をとつているから、このクモも越冬することが出来るようになったものと考えられる。今後共この調査をつづけアシダカグモが東京都に定住しているかどうかをはつきりさせたいと思う。

クモの天敵に関する文献 (2)

12. 片山 寛之 (1932) ジガバチモドキの造巢に関する考察 むし 5, 43-44pp.
13. 岸田 久吉 (1937) クモタマゴバへ(食蛛卵蠅)に就て Acta Arach, II(3), 90-94pp.
14. 木庭 奏 (1964) ゴミクモ及オオヒメクモに寄生する蜂の生活史について 熊本県中学校理科研究会会誌 1, 38-41pp.
15. 小松 敏宏 (1939) Chiracanthium Kompiricola W.DOENITZに寄生するHomonotus Iwatai YASUMATSU 昆虫世界, 43(498),
16. 南村 清二 (1935) 蜘蛛と寄生蜂 昆虫界, 3(3), 190-199pp.
17. ————— (1949) ルリジガバチを飼う 採集と飼育 11(7) 205-206pp.
18. 中平 清 (1963) クモの生活断片(5) ATYPUS, 30, 4-10pp.
19. 大和 昌久 (1965) 蜘蛛の世界 ATYPUS, 36, 34-36pp.
20. 奥村 定一 (1952) 珍奇な冬虫夏草と蜘蛛 Acta Arach, XIII(1), 37-38pp.
21. 白甲 鏞 (1953) 蜘蛛雑記 Acta Arach, XIII(2)102-103pp.
22. 佐藤 納 (1955) ベブシスベツコウバチ ATYPUS, 8, 24-25pp.
23. 関口 晃一 (1941) カバキコマチクモの寄生蜂イワタツツベツコウバチに就いて Acta Arach, VI(4), 130-136pp.
24. 植村 利夫 (1957) ジガバチモドキ2種の狩るクモ 自然の観察 1, 10-12pp.
25. ————— (1958) オオヒメクモヤドリバチ 自然観察 3-4, 4-5pp.
26. 八木 沼健夫 (1968) チユウガタコガネの寄生蜂 ATYPUS, 48, 38pp.
27. 山崎 夏子 (1946) 冬虫夏草 採集と飼育 8(1) 6-7, 9pp.
28. 谷津 直秀 (1934) クモに寄生するハリガネムシ 動物学雑誌46(544), 63p.

(大河内 哲 二)

東京蜘蛛談話会最近の収穫より

新 海 栄 一

東京蜘蛛談話会会員により1968年から1970年7月の間に採集されたクモ、ならびに最近になり種名を確認することができたクモの中より、分布上重要と思われる16種を報告しておく。既知産地は *Atypus* に発表されている八木沼博士の「分布資料」、及び1965~1970年6月までに発表されている分類、分布関係の各文献より記録している。

1. *Amaurobius flavidorsalis* Yaginuma セスジガケジグモ
28-X-1968, 山梨県岩谷, ♂1・幼生多数, 新海栄一採集
既知産地: 広島・鳥取・奈良・岩手・宮崎・栃木
2. *Ariadna insulicola* Yaginuma シマミヤグモ
22-III-1970, 千葉県犬吠崎, ♀亜, 松本誠治氏採
既知産地: 京都冠島
3. *Dipoena flavomarginata* Boes. et Str. キベリミジクモ
29-X-1967, 千葉県千倉 石井和子氏, 鈴木美知子氏採
14-VII-1969, 千葉県江見町 松本誠治氏採
既知産地: 宮崎・伊豆新島・式根島
八木沼・大野両氏は「新島・式根島・神津島の真正蜘蛛類」の中で、本種が本州の南部や四国において採集される可能性があることを記していられるが、今回千葉県南部で採集された。なおこれは本州における初めての記録である。
4. *Euryopis flavomaculata* (O. Koch) キマダラヒラタヒメグモ
(新称)(日本新記録)
17-VII-1969, 尾瀬ヶ原(新潟県), ♀1, 新海明採
本種は旧北区に普通の種で、カムチャツカまで産することが確認されていたが、今回新たに日本の *fauna* に加わった。
Euryopis は1967年までカニヒメグモ属として日本においても記録されていたが、オニヒメグモ(*E. mustelina* SIMON)が *Dipoena* に転属された関係から、現在で *Euryopis* に属するクモは一種も確認されていなかった。なお属和名は本種の生時の歩行状態がヒラタグモに似ているところからヒラタヒメグモ属とする。
5. *Spheropistha melanosoma* Yaginuma クロマルイソウロウグモ
6-III-1967, 奄美大島湯湾, ♀1, 大河内哲二氏採
既知産地: 広島・高知・三重
6. *Ero furcata* (Villers) キタセンシヨウグモ
23-XI-1969, 東京都景信山, ♀1・亜成1, 新海明・大橋幸男氏採
既知産地: 木曾御岳
7. *Araneus tartaricus* (Kroneberg) コケオニグモ
7-III-1969, 山梨県西湖, 国見裕久氏採
18-V-1968, 静岡県朝霧高原, ♀亜成体, 大河内哲二採
既知産地: 東京・神奈川・奈良・京都・兵庫・福井・高知・栃木・埼玉・宮崎・青森・トカラ・長野

KISHIDAIA, 1618, 1970, July

上記分布より見て北海道を除く日本全土に産するものと思われる。長野県八ヶ岳では群生している地域も発見されている。

8. *Araneus variegatus* Yaginuma ニシキオニグモ
千葉県江見町(松本誠治氏)・埼玉県吾野(大河内哲二氏)
既知産地:樺太・北海道・東北・和歌山・茨城・栃木・神奈川・長野・
北部型のクモで関東以北において多く採集される。
9. *Araneus viperifer* Schenkel カラオニグモ
26-V-1966, 長野県浅間高原 大河内哲二氏採
既知産地:岩手・対馬・宮城・滋賀・茨城・岐阜・新潟栗島・高地・小豆島
産地の広がりかたから見て、日本全域に分布するものと思われる。
10. *Poltys illepidus* C. Koch ゲホウクモ
神奈川県厚木(大河内哲二氏), 千葉県
既知産地:三重・滋賀・京都・大阪・兵庫・和歌山・高知・山口・宮崎・大分・宮城金華山
島・沖縄・奄美・伊豆式根島
11. *Meta menardi* (Latreille) サンロウドヨウクモ
埼玉県宝晶寺入口(佐藤茂氏採)
既知産地:愛媛・茨城・長野・熊本・秋田・山形・岩手・栃木・奈良・群馬
鍾乳洞入口付近で採集されることが多い。
12. *Menosira ornata* キンヨウクモ
12-VI-1969, 山梨県扇山, ♀1,
既知産地:長野・滋賀・北海道釧路・宮崎
腹部班紋に変異があり、今回採集されたものは黒色の地に黄色の班紋(腹部中央の赤色部
が黄色になつている)を有する。
高山性(寒地性)のクモであるため、平地で採集される可能性はないと思われる。
13. *Litisedes shirahamensis* イソタナグモモドキ
千葉県館山(松本誠治氏), 洲崎(萱島泉氏・国見裕久氏・新海栄一), ♀♂多数
既知産地:和歌山・伊豆八丈島
マチクモ属のクモに似た海浜性のクモで原記載以来1回の採集記録があるのみであつたが、
今回千葉の海岸において採集された。太平洋岸の各県においても採集される可能性が十分あ
ると考えられる。
本種をタナグモ科におくか、ミスグモ科におくか二通りの意見がありいまだに安定した位
置におかれていない。
14. *Thanatus nipponicus* Yaginuma ヤマトヤドカリクモ
29-III-1962, 東京都御岳山, ♀♂1, 井上明夫氏
既知産地:対馬
井上明夫氏の標本整理中に本種を見出した。原記載以前の記録ではあるが一応報告してお
く。今後各地で注意を要するクモである。
♂はやや小型であるが、♀とほぼ同じ班紋をしている。
15. *Myrmarachne kuwagata* Yaginuma クワガタアリグモ
14-VI-1968, 沖永良部島和泊, ♀1, 松木和雄氏採
既知産地:山形

原記載以来初めての記録である。

16. *Phrurolithus komurai* Yaginuma

コムラウラシマグモ

神奈川県中津川(新海明・田沢秀明・大橋幸男氏採) ♂♀多数

既知産地：大阪・和歌山・長野・岩手・東京

局地的分布の傾向があるが、産地と採集個体数より考えると今後各地において採集されることと思われる。

東京蜘蛛談話会会員名簿 (アルファベット順)

荒畑正治	152	目黒区中央町1-3-5
新井彌生	369-12	埼玉県大里郡寄居町藤田 45-1
大門守夫	339	埼玉県岩槻市黒谷1093
福本伸男	679-41	兵庫県竜野市揖西町中垣内 兵庫県立播磨養護学校内
権田重雄	143	太田区大森中3丁目19-7
浜村徹三	729-24	広島県豊田郡安芸津町三津農林省園試宿舍103号
石井和子	273	千葉県船橋市三山町558 電々アパート2-210
石山鉄幸	133	江戸川区篠崎 7-298-13
萱嶋泉	191	東京都日野市豊田 1896
近藤昭夫	222	神奈川県横浜市港北区樽町 324-7
久保田寿一	339	埼玉県岩槻市黒谷 1093
国見裕久	166	杉並区堀の内 3-20-7-305
松本誠治	164	中野区彌生町 4-34-17
野戸章	399-45	長野県上伊那郡南箕輪村沢尻
大河内哲二	339	埼玉県岩槻市愛宕町4-20
大久保襄	178	練馬区中村南 1-36
大熊千代子	812	福岡県福岡市千代田町2丁目公団住宅726
大野正男	350-02	埼玉県入間郡鶴ヶ島町脚折 224
小野展嗣	150	渋谷区神宮前 5-9-24
小野武比古	537	大阪市東成区大今里南1町30
小沢実樹	156	世田谷区赤堤 5-36-10
佐藤幸子	182	東京都調布市富士見町2-10
渋谷安生	330	埼玉県大宮市榎引町2-322
新海栄一	185	東京都国分寺市本多 1-6-6
菅波洋平	318	茨城県高萩市本町3-29
高野伸二	191	東京都日野市多摩公団住宅 148-5
田中穂積	590	大阪府堺市緑ヶ丘北町2-23 沢木勝方
垂水有三	557	大阪市西成区津守町東8-82
内山和子	158	世田谷区中町 3-14-6

吉田 哉 990 山形県山形市上町 1-3-6
吉倉 真 860 熊本県熊本市清水町高平字奥鶴151

東京蜘蛛談話会の性格

本会はクモ愛好者の集いである。本会はクモ愛好者の底辺を拡大し、且つ、専門的研究への第一歩を養成することを目的とする。この目的達成のため、機関誌 KISHIDAIA を発行し、不定期に研修会を開催する。

機関誌 KISHIDAIA は、会員相互の親睦及び通信、情報交換、クモ学へのオリエンテーションに関する原稿をもとに編集する。本誌への投稿は会員を原則とするが、会員外の原稿も協議の上採用する。又、原著論文は通常除外する。

研修会は、採集会、研究発表会、講演会、映写会、その他などを内容として開催する。

機関誌の発行、会の運営のため会費は一人年間500円とする。尚、会費納入者は自動的に会員となる。

投稿規程

1. 前述の KISHIDAIA の内容に合致した原稿であること。
2. 会費納入者であること。
3. 所定の原稿用紙 (45 × 42) を使用する。
4. 別刷は著者が実費を負担する。
5. 挿図は略図、線画程度とし、図版は原寸、墨入れをする。
図版 (謄写フアックス) は実費著者負担

KISHIDAIA №18

1970年7月30日 印刷

1970年7月31日 発行

発行所 東京蜘蛛談話会

〒191 東京都日野市豊田1896 萱嶋 泉方

PHONE 0425 (81) 7128

印刷所 埼玉県身体障害者更生指導所

タイプ孔版科
